

## 第3回 日本臨床薬理学会 関東・甲信越地方会を終えて

日本医科大学腎臓内科

鶴岡 秀一

会期：2018年11月24日(土)・25日(日)

会場：横浜市社会福祉センター

会長：鶴岡 秀一 (日本医科大学腎臓内科)

### 1. 開催概要

第3回日本臨床薬理学会第3回 関東・甲信越地方会を2018年11月24日(土)・25日(日)の2日間にわたり横浜市社会福祉センターで開催した。通常地方会は1日の会期で行われるが、今年度は日本臨床薬理学会総会が秋に開催されないという特殊な事情があったため、社員総会など学会が主催する行事と合わせて、関東・甲信越地方会を計2日間にわたって開催することとなった。地方会としての統一テーマは設けず、広く合理的な薬物療法に関するワー



Figure 1 第3回 関東・甲信越地方会ポスター



Photo. 1 会長挨拶

クショップ3題、シンポジウム1題と、一般演題、スポンサーセミナーが行われ、それぞれ多くの方々が参加され、盛んな討議がなされた。天気にも恵まれ、延べ238名の参加をいただいた (Figure 1, Photo. 1, Table 1)。

### 2. ワークショップ

臨床薬理学に関する幅広い分野にわたって、3つを企画した。1つ目は認定CRC委員会の山田浩氏 (静岡県立大学)、榎本有希子氏 (日本大学) が座長のもと「CRCの経験を活かしたキャリアアップと未来予想図」、2つ目は熊谷雄治氏 (北里大学)、貝原徳紀氏 (ファイザー(株)) が座長のもと「臨床薬理学としてのファーマコメトクスIV」、3つ目は植田真一郎氏 (琉球大学)、越前宏俊氏 (明治薬科大学)

著者連絡先：鶴岡秀一 日本医科大学腎臓内科 〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5 E-mail: tsuruoka@nms.ac.jp

投稿受付 2018年12月2日、掲載決定 2018年12月11日

ISSN 0388-1601 Copyright: ©2019 the Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics (JSCPT)

Table 1 タイムテーブル

	【1日目】 11月24日(土)	第2会場 9階 901+902	9階 904	【2日目】 11月25日(日)	8階 8A+B	9階 901+902
9:30	第1会場 4階 ホール					
10:00	10:00-10:05 開会式					
11:00	10:05-12:05 CRCの経験を活かした キャリアアップと未来予想図 座長:山田 浩、榎本有希子 演者:稲吉美由紀、長谷山貴博、 渡部歌織、丸山由起子、 石橋寿子	10:05-11:35 臨床薬理学としての ファーマコメトリクスIV Dawning of Meaningful Bridge through Pharmacometrics between Academia and Industry 座長:熊谷雄治、貝原徳紀 演者:木村信之、内山耕作、 谷河貴彦、樋坂章博		10:00-16:00 第25回 臨床薬理学 講習会		
12:00			11:40-12:40 世話人会			
13:00		12:15-13:15 ランチョンセミナー ウレミットキシンからみた慢性腎臓病管理 一保存期から透析期まで 座長:鶴岡秀一 演者:山本 卓 共催:田辺三菱製薬株式会社				12:00-13:00 社員総会
14:00	13:30-14:30 スポンサーセミナー 抗体医薬品の現状と独自の抗体創製技術 座長:片山志郎 演者:角田浩行 共催:中外製薬株式会社	13:30-14:30 一般演題1 座長:下田和孝 松本直樹				
15:00	14:40-16:40 ベッドサイドの 臨床薬理学 座長:植田真一郎、越前宏俊 演者:松本直樹、武知由佳子	14:30-15:30 一般演題2 座長:中村哲也 川口敦弘			14:00-16:00 シンポジウム 第2回臨床薬理学集中講座 フォローアップ・セミナー 座長:乾 直輝 セッション1(臨床薬理研究の領域・種類や進め方などの 経験談の紹介) パネリスト:大谷直由、 神山直也、三邊武彦 セッション2(臨床薬理共同研究推進体制の構築に 関する意見交換) パネリスト:武智研志、 鈴木啓介、肥田典子	
17:00	16:40-16:50 閉会式					

座長のもと「ベッドサイドの臨床薬理学」であった。臨床薬理学を担ううえで重要な柱であるCRC、製薬企業、臨床とさまざまな分野から多くの方がそれぞれの立場から討論に参加され、それぞれ総会並みの活発な会議となった(Photo. 2, 3)。

### 3. シンポジウム

臨床薬理研究振興財団との共催シンポジウムとして乾直輝氏(浜松医科大学)が座長のもと「第2回臨床薬理学集中講座フォローアップ・セミナー」が行われ、若手の臨床薬理学者を中心に建設的な意見が数多く出され、非常に今後の発展性を感じさせる有意義なものとなった。

### 4. 一般演題その他

一般演題は口演8題とやや少なめであったが、臨床、薬学系など幅広い分野からの演題が集まり、それぞれ活発な討論がなされた。スポンサーセミナーも2題なされ多くの方が参加された(Photo. 4)。また学術総会で例年行われる社員総会および臨床薬理学講習会も、本地方会に付帯して第2日目に行われた。

### 5. 終わりに

天候にも恵まれ多くの方々に参加いただき、実務的な面でも大きなトラブルもなく終えることができ、まずは安堵しているところです。来年は群馬大学中村哲也氏を会長と



Photo. 2 ワークショップ風景1



Photo. 3 ワークショップ風景2



Photo. 4 スポンサーセミナー風景

して高崎市で開催されることも決まっております。今年以上の盛会となることを祈念しております。

末尾になりますが、開催のお手伝いをいただいた当教室

の荒川裕輔先生およびメディカル東友(株)西井喜久子様をはじめとする関係各位に深謝いたします。